JASDAQ

平成１７年３月期　第１四半期財務・業績の概況（非連結）

平成 16 年 8 月 4 日

会社名　株式会社平賀　（コード番号：7863　登録銘柄）
（ＵＲＬ　http://www.pp-hiraga.co.jp/　）
代　表　者 役　職　名　代表取締役社長
氏　　　名　平賀　豊
問い合わせ先　責任者役職名　取締役管理本部長兼管理部長
氏　　　名　中村　則丈　ＴＥＬ：(03) 3991―4541

１．四半期財務情報の作成等に係る事項

① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無　：　有
(1) 貸倒引当金については、直前決算期の貸倒実績率等に基づき計上しております。
(2) 固定資産の減価償却費については、年間償却額の当四半期分を計上しております。
(3) 税金費用の計算方法については、簡便的な方法を採用しております。
(4) その他影響額が僅少なものについては、一部簡便的な方法を採用しております。
② 最近事業年度からの会計処理の方法の変更の有無　：　無

２．平成 17 年 3 月期第 1 四半期財務・業績の概況（平成 16 年 4 月 1 日　～　平成 16 年 6 月 30 日）

(1) 経営成績の進捗状況　（百万円未満切捨）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期（当期）純利益
	百万円　%	百万円　%	百万円　%	百万円　%
17 年 3 月期第 1 四半期	1,807 (△8.9)	78 (―)	84 (―)	44 (―)
16 年 3 月期第 1 四半期	1,983 (△2.2)	― (―)	― (―)	― (―)
(参考)16 年 3 月期	7,648	272	266	132

	1株当たり四半期（当期）純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益
	円　銭	円　銭
17 年 3 月期第 1 四半期	11　87	―
16 年 3 月期第 1 四半期	―	―
(参考)16 年 3 月期	28　10	―

(注)　売上高以外の四半期経営成績の開示は当四半期より行っているため、前年同四半期につきましては記載しておりません。

[経営成績の進捗状況に関する定性的情報等]

当第１四半期におけるわが国経済は、原油価格の動向による世界経済の影響はあるものの企業部門の改善に広がりがみられてきました。広告業界におきましても、一部の媒体で減少はあるものの広告全体では活発に動き始めました。しかし、印刷業界における販売価格の企業間競争は未だ改善されず厳しい経営環境のまま推移しました。

このような状況のなか、当社におきましては、受注数量は増加傾向でありましたが、受注価格の回復に至らず、当第１四半期における売上高は、1,807 百万円（前期比 8.9%減）、経常利益 84 百万円、四半期純利益 44 百万円となりました。

(2) 財政状態の変動状況 （百万円未満切捨）

	総　資　産	株 主 資 本	株主資本比率	1株当たり 株 主 資 本
	百万円	百万円	%	円　　銭
17年3月期第1四半期	7,230	3,553	49.2	956　72
16年3月期第1四半期	―	―	―	―
(参考)16年3月期	7,409	3,617	48.8	968　44

(注)　当四半期より四半期財政状態の開示を行っているため、前年同四半期については記載しておりません。

[財政状態の変動状況に関する定性的情報等]

当第1四半期の財政状態は、平成16年3月期と比較し総資産は、1億79百万円減少の72億30百万円となりました。これは主に、現金及び預金が1億34百万円および受取手形、売掛金の回収により38百万円減少したことによります。

負債面におきましては、短期借入金1億50百万円の減少などにより、36億76百万円となりました。

株主資本につきましては、利益処分および有価証券の時価評価により、35億53百万円となりました。

【キャッシュ・フローの状況】 （百万円未満切捨）

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期　末　残　高
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年3月期第1四半期	134	142	△261	1,875
16年3月期第1四半期	―	―	―	―
(参考)16年3月期	58	163	△171	1,859

(注)　当四半期より四半期キャッシュフローの開示を行っているため、前年同四半期については記載しておりません。

[キャッシュ・フローの状況に関する定性的情報等]

当第1四半期における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）につきましては、平成16年3月期より15百万円増加（0.8%増）し、18億75百万円となりました。

当第1四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、1億34百万円となりました。これは主に、税引前当期純利益85百万円計上したことおよび売上債権の減少による収入38百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果得られた資金は、1億42百万円となりました。これは主に、投資有価証券の売却による収入により2億2百万円あったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、2億61百万円となりました。これは、短期借入金の減少が1億50百万円および配当金の支払いが1億11百万円生じたことによるものであります。

○　添付資料

（要約）四半期貸借対照表、（要約）四半期損益計算書、（要約）四半期キャッシュ・フロー計算書

以　上

[参　考]

平成17年３月期の業績予想（平成16年４月１日　～　平成17年３月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
中　　間　　期	3,730	100	50
通　　　　　期	7,800	290	150

（参考）１株当たり予想当期純利益（通期）　　　40円　　38銭

［業績予想に関する定性的情報等］

当第１四半期の営業状況は概ね順調に推移しており、平成16年５月19日公表の中間期および通期の業績予想に変更はありません。

なお、予想値につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。